



地域に根ざし、世界に開く

コラボ通信

私たちの2021年度

第54号

2022年3月30日

CCC (コミュニティ・コラボレーションセンター) とは・・・

学生が学外で生きた学びを得られるように支援する教育機関です。地域、社会、世界の人々と出会い、協働することで、大学で学んだ知識を活かしたものにしていけるようサポートしています。これまでに、多くの学生がCCCを通して地域に飛び出し、NPOや市民団体、企業などと連携して共に活動しています。

新入生のみなさん、ぜひ、CCCに1度足を運んでみてください☆





オンラインで開催！ちょこっと

～はじめに～

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスが猛威をふるった2021年度。しかし、今までの経験を踏まえ、感染対策をおこないながら、対面授業・活動を再開することができ、少しずつ希望が見えてきました。本号では、学生がコロナ禍で、何が出来るかを考え、どのような活動をしてきたかをご紹介します。

～ちょこっとボランティア講座リレーの開催～

CCCでは「ちょこっと ボランティア講座リレー(オンライン)」と題して、ボランティアや社会貢献についての理解が深まるように、各方面でご活躍されている方を講師として呼び、お話を聞く会を全12回にわたって開催しました。お昼休憩内の30分の講座でしたが、ゲストスピーカーの方々の言葉で、心を動かされ、行動に移してきた学生の姿を見ることができました。「コロナ禍でもやれること」から「コロナ禍だったからできたこと」へ。全12回の開催内容をご紹介します。

第1回
2021.4.23



元トヨタ自動車ボランティアセンター長 鈴木 盈宏 様

○テーマ

ボランティアで社会が変わる！自分が変わる！
なぜ、企業が社会貢献をおこなうのか。



第2回
2021.5.27



豊田市役所次世代育成課 秋田 様

○テーマ

せっかくの大学生、地域を使って、やりたいことをやっちゃおう！
自治体が大学生とおこなう「まちづくり」。
大学生たちはどんな参画をしているのか！？



第3回
2021.6.25

東日本大地震から10年が経ち、福島県も復興が進んできているなか、人の偏見や風評被害などの問題が未だ解決できておらず、苦しんでいる方々がいらつしゃるという現実を知りました。

ビジネス学部
仲嶋 里帆さん

元福島市岡山小学校校長 宮武 泰 様

○テーマ

東日本大震災から10年。この10年が福島の人にとって、
どんな10年だったのか。
現地が考える「これからの復興には、何が必要か」。



第4回
2021.7.1

リサイクルは社会変化の中で生まれたものだと思います。自分で考えて行動することが一番大切だという萩原さんの言葉がよく伝わりました。

文学部
垣見 真菜さん

元NPO法人中部リサイクル運動市民の会 代表 萩原 喜之様

○テーマ

「リサイクル」という言葉がまだ社会に知れ渡っていない時代に「できることから始めよう」と地道なりサイクル活動をスタートさせたことについて、お伺いします。



第5回
2021.7.29



メニコン株式会社 小畑 あずさ 様

○テーマ

仕事にプライベートに、ボランティア。
働くことや社会人になるって、一体どんなかんじなんだろう？
社会人の先輩の話を色々きいてみよう！



ボランティア講座リレー



第6回
2021.10.25



ソウル大学大学院生 藤本 己子様
(愛知淑徳大学 卒業生)

○テーマ

韓国から後輩のみんなへ。
学生時代にどう過ごすか、今後生きてくる？
韓国の若者事情も含めて世界で生き抜く力について、伺います☆



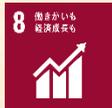
第7回
2021.11.8



名古屋大学 URA 野原 かほり様
(愛知淑徳大学 卒業生)

○テーマ

東海発起業家育成プログラム Tongali のコーディネーターである野原先生。Tongaliの活動には、学生時代の活動がどう活かされているのか、伺います。



第8回
2021.11.18



南山大学3年生 FIWC東海委員会所属
東村 俊輔様

○テーマ

ハンセン病の啓発活動をおこなっている東村さん。
ハンセン病患者の支援活動の話や、将来の夢の話は、
同じ学生として刺激になるものばかり☆



第9回
2021.11.25

「知っていることからしか興味は持てない」というお話をお聞きして、今、大学生という期間の中で視野を広げ、様々なことを見聞きしておくことが重要であることを感じました。

株式会社デンソー 足立 春佳様
(愛知淑徳大学 卒業生)

○テーマ

「ボランティアって、就職に活かせる？」学生時代の過ごし方。
交流文化学部 吉富 友里亜さん 学生時代の体験の中で、今社会人として活かしているものは？



第10回
2021.12.9



児童養護施設岡崎平和学園 小笠原 寛様

○テーマ

養護施設で暮らす子どもたちの日常と先生の想い。
お話から、私たちが学び取るものがたくさんあります。



第11回
2021.12.16



愛知淑徳大学4年生 なごやであそび隊所属
伊藤 菜々子様

○テーマ

学生からみた“リアルな今の福島”と震災支援活動について伺います。



第12回
2021.12.23

無駄だと思った経験も絶対無駄にならない」というお言葉が胸に刺さり、知識をアウトプットするためには実体験が必要だと学んだので、これからは積極的に色々なことに挑戦し、たくさん経験を積んでいこうと思います！

元愛知淑徳大学 交流文化学部教員
榎田 勝利様

○テーマ

国際貢献の最前線で活躍された後、企業のCSR活動の助言をされてきた榎田先生。
学生時代、どんな経験をすれば社会に活かすことができるか、そのヒントを頂きます。



交流文化学部
市原 綾乃さん

with コロナの生活にも少しずつ慣れてきた2021年度。

まだまだ今までのような活動はできていないですが、対面とオンラインのハイブリッド式で、感染対策を徹底しながら活動をおこなってきました。

活動を通しての気づき、学びなど…学生たちの感想と活動についてまとめましたので、ご紹介します！

今私たちが
できること
ずっと私たちが
できること
SDGs



食品ロス削減活動！

星が丘キャンパスの売店「Letus」にある賞味期限間近の食品が廃棄にならないよう、食品ロス削減活動をおこなってきました。活動を始めたきっかけは、飲食店でアルバイトをしているときに、食品廃棄の量の多さが気になったことです。活動を通して感じた事は、まず食品廃棄をなくすことはかなり難しいということ、そして一人だけでは絶対になくすことはできないということです。しかし一人一人が意識して生活すれば減らすことはできます。



↑ 掲示したポスター

食べ物がなくて困っている人がたくさんいる中で多くの食べ物が捨てられていることがあってはいけないと思います。一人でも食品廃棄のことを意識してもらえるようになれば嬉しいです。

ビジネス学部 3年
平野 将太郎さん(左) 赤木 勇紀さん(右)

野菜の皮で染め物体験

私がこの活動を始めようと思ったきっかけは、普段何気なく捨てている野菜の食べられない部分をそのまま捨てるのは勿体ないと思ったためです。私自身野菜が育つのにどの位の時間が必要か知りませんでした。今回ご縁があり農家さんに直接お話を伺う事ができ、玉ねぎだと5か月位かかるという事を知りました。これだけの時間と労力をかけて我が子の様に大切に野菜は育てられているのです。そこで、今回は玉ねぎの皮を利用して染物体験をしました。野菜の皮などは煮だすと色々な色が出ます。絵具としてお絵描きも楽しめるし染物も楽しめます。この活動から皆さんに普段「食べられない」という理由から捨ててしまう部分でも食べることを以外の使い方が出来るという事を知ってもらい、野菜の色々な楽しみ方をしてもらえれば嬉しいです。

交流文化学部 2年
中島 梨緒さん



学生団体 Buzz-4U 子どもたちにSDGsについて知ってもらおう！

Buzz-4Uはアーバンラフレ星ヶ丘にて小学生と一緒にSDGsを学ぶ「バズのSDGsハカセ」というイベントを開催しています。

Buzz-4U 代表
交流文化学部
2年 本田 早伽さん



SDGsという規模の大きな話はどうしても他人事のように感じてしまいがちだけれど、案外私たちの生活に根付いていて、身近な問題として存在しています。SDGsが子どもを中心により多くの人の「ジブンゴト」になるよう、これからも頑張ります！



11月には「14番：海の豊かさを守ろう」をテーマに自分たちが実際に海で拾ってきたマイクロプラスチックを活用し、世界の海の現状や取り組みをゲームを交えながら伝え、どうすべきかを一緒に考えました。

ロスゼロチーム 売れなくなった野菜を使って色々なレシピを考えよう！

活動を始めたきっかけは、まだ食べられるのに多くのものが捨てられているという世界や日本の現状を知ったからです。調べてみると、予想もしてなかったほどの量がお店や家庭、スーパーから廃棄されていると知り、食品ロスを減らすための活動をしたいという思いになりました。



長久手リニモテラス内にあるトリハチコーヒーさんに、廃棄予定だった人参を引き取ってもらった様子

活動内容は、八百屋さんから売れなくなった野菜を引き取り、カフェなどで活用してもらう、自分たちでロス食材を調理しInstagramに投稿するなどです。どちらの活動も捨ててしまうような食材でも美味しく食べられるということを少しでも多くの方に知ってもらいたいという思いのもと活動をしています。

活動を通して、食品ロスの問題の深刻さや重大性を感じるとともに、それを多くの人に伝え、食品ロス削減をおこなってもらうことの大変さを実感しました。

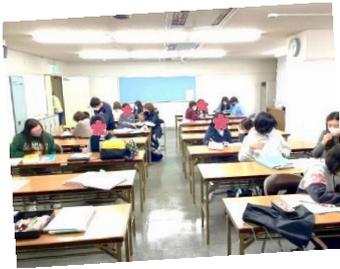
今後の活動では、食品ロスについて少しでも知ってもらい、ほんの少しの工夫で食品ロス削減ができることを伝えていきたいと思っています。

日本や世界の食品ロス問題を大きくは変えることはできないかもしれませんが、ほんの少しでも食品ロスについて考える人が増えるよう今後も活動を頑張っていきたいと思っています。

健康医療科学部 3年
梅津 真衣さん(左)

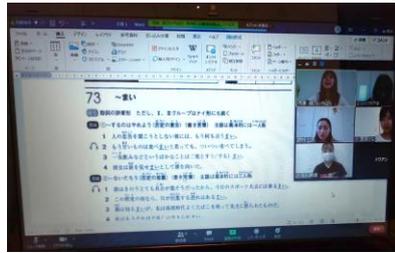


つくも日本語教室
外国にルーツがある子どもたちへ
勉強のサポート



私も外国にルーツがあり、幼い時に日本語が不自由で沢山苦労してきましたが、自分と同じ立場の子たちが楽しそうに通ってくれているのを見て少しでも心の支えになりたいと思い活動してきました。
ビジネス学部 2年 荻久保マユミさん

毎週日曜開催！
ベトナム日本語教室



日本語教師課程で学んだ知識を活用し日本語教室をおこなってきました。回を重ねる中で話す速度など反省点もあり学びに繋がりました。相手の方と授業以外でも話すほどの関係を築けて嬉しいです！
交流文化学部 4年 赤堀 由布子さん

学生団体 アミーゴ
外国にルーツをもつ子どもたちの
ドリームマップ作り



好きなものを通して夢を考え、子どもの心にある想いを外に発信することを目的に活動しています。子どもたちとの交流を一度きりにしないため、子どもたちへメッセージカードを送ることを始めました。
交流文化学部 3年 中村 春月さん

国際

ご飯パックのお渡しと交流会



子どもたちはとても元気いっぱい、ボランティアへ行った私達が子どもから元気をたくさんもらいました！事前に準備をして行ったイベントを楽しそうに参加している姿を見てとても嬉しい気持ちになり、やりがいを感じました。また、子どもにとって心が落ち着く居場所を作ることが大切なのだと思ふことができました。
福祉貢献学部 2年 山田 菜央さん

里親と暮らす子どもたちへ 勉強会を開催



「大学」を知ってもらうため大学内をめぐるクイズラリーをおこないました。参加前は子どもたちが心を開いて話してくれるのか不安でしたが、好きなアニメの話などで盛り上がり、子どもたちと学生の笑顔があふれる会になりました。
交流文化学部 2年 山本 羽奈さん

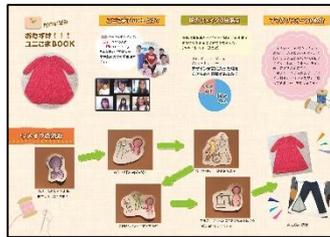
子ども

学生団体 あじゅあす
障がいをもつ方への理解を深める
パンフレットづくりに挑戦



制作で心がけたのは、「障がい者のできることだけでなく、できないことも正しく伝えよう」ということです。だからこそ「伝えることの責任」を感じながら、制作にあたりました。間違えた情報を発信してはいけなし、伝わりやすさやわかりやすさをとことんこだわりました。
福祉貢献学部 4年 中西 美羽さん

学生団体 ユニコマPlus+
被服に対する困りごと
服のリメイク活動を知ってもらおう



服のリメイクによる着たい/期待の実現を目指す取り組みを非対面でも活かすため、パンフレットの制作を進めました。リメイクのことや活動をまずは「知って」もらうこと、それが新たな“きたい”の実現に繋がってゆくことを願いきっかけの提供をおこなっています。
福祉貢献学部 4年 田口 あおいさん

学生団体 Fsus4
長久手ゴジカラ村で演奏



高齢者施設や障がい者施設での演奏や交流を通して、施設利用者と一緒に楽しむことを大切に活動しています。演奏とメッセージを収録したDVDを贈っていましたが、今年度はコロナで中止していた高齢者施設への訪問を再開しました。
福祉貢献学部 3年 上條 真美さん

福祉

学生団体 そとそと
豊田市足助町のパンフレット作成



学生ならではの視点を大切にしながらまちづくりの活動を行うことで、地域を活性化することを目標にしています。2021年度は、豊田市主催の事業に参加し、観光を通して足助地区の交流人口を増やす取り組みを模索しました。
交流文化学部 3年 百嶋 夏梨さん

地域活性

学生団体 ポレラ
下呂市小坂町の活性化プロジェクト



現地の人々のあたたかさに触れ、見知らぬ私たちにも優しく接していただき、感謝の気持ちを返したいという思いで、小坂町の活性化に全力を注いでいます。現在は現地で活動ができませんが、SNSでの情報発信をはじめました。
交流文化学部 3年 豊田 翔理さん 吉富 友里亜さん

編集後記

6月からCCCに着任しました日比野愛です。学生たちがコロナ禍でもできることをみつけて奮闘している姿を編集を通して改めて気づくことができ、パワーをもらいました。困難な時代だったからこそ、できることもあったはず。学生たちと一緒に前をむいて歩いていきたいです。これからどうぞよろしく願います。



567 WITH ~未来の日常~

コロナ禍が長期化する中、私たち大学生も社会情勢に対して、受け入れたり、考え悩んだり。「大学生のコロナ禍」の一部をお伝えできたらと思います。



今回私たちはワクチンとエンタメという視点で「これから」の生活について話し合いました。学生の中でも様々な意見が飛び交う中で、より良い「これから」を作るために多くのことを考える時間になりました。まだまだ落ち着かない毎日ですが、私たちの記事をきっかけに「今まで」のことだけでなく「これから」について一緒に考えていきませんか？

新型コロナウイルスの影響で、多くの物事が変化しました。今回はそんな新型コロナウイルスについての記事を私たち大学生目線で書かせて頂きましたが、いかがでしたか？

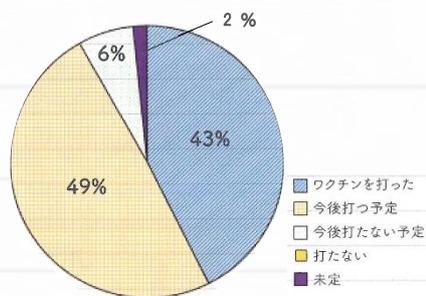
この記事では「終息したら」なにをしたいかという質問でしたが、「終息したら」というのは希望的観測に過ぎないと考えています。現実的には、どれだけ上手に「共存」するか、が鍵となるでしょう。自分の行動に責任を持つことを忘れずに、これからも生活していきたいと思えます。



コロナという前代未聞の出来事を学生という立場で経験して、色んな楽しみが奪われてきました。今回、同じ経験をしてきた大学生の声をアンケートという形で聞くことで、皆コロナによって青春が奪われてきて悔しい気持ちややるせない気持ちがあったと分かりました。今後、ワクチンが打てることによって日常が戻るという希望に向けて歩き出しています。皆さんもこれからの生活に向けて一緒に歩きませんか？

ワクチン、あなたは打つ？打たない？

(2021.8.15~9.15にアンケートを実施)



回答者

年齢 平均19.54歳
 性別 男性8人 / 女性50人 / 選択しない3人

回答者の内訳

愛知大学 19人	金城学院大学 1人
愛知淑徳大学 27人	名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 1人
福山女学園大学 1人	藤田医科大学 1人
中京大学 2人	総合学園ヒューマンアカデミー名古屋校 1人
名古屋大学 2人	名古屋市立大学 1人
名古屋柳城短期大学 1人	中部大学 1人
日本福祉大学 1人	愛知県立大学 2人

合計61人



ワクチンに対する私たちの声

【打つ派】

- 大学で打てるなら、打ちます。
- 感染の急速な拡大やデルタ株など、何をしてもリスクがあまりにも大きすぎるから。
- 自分がコロナになった時のためでもあるけど、他の人にもうつさないため。
- 早く打ちたいと思っていた。しかし、なかなか予約が取れず、ようやく打てる予定がたった。

【打たない派】

- 就職試験が終わるまでは副反応が怖いから打ちたくない。
- 大学のワクチン接種は予定が合わず、身近の病院ではワクチンが不足しているため。
 など

コロナ終息後に、何をしたいですか？ (複数回答可)





みんな知りたい! ジェンダーと私たち

近年、よく耳にする「ジェンダー」。「ジェンダー」とは何でしょうか。身近なようで、身近じゃない!? ジェンダーの世界。私たちと少し覗いてみませんか?

ジェンダー定義

ジェンダーとは? …「社会的、文化的な性差」と一般的に訳される。先天的なものではなく、文化的に身につけた、あるいはつくられた性差の概念(日本大百科全書より)

【用語の解説】

① LGBTQ+

左からレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字。「+」はそれ以外にもあるという表記

② レズビアン

女性のことが好きな女性

③ ゲイ

男性のことが好きな男性

④ バイセクシュアル

男性と女性の両方が好きな人

⑤ トランスジェンダー

心と身体の性が一致しない人

⑥ クエスチョニング

自分の性の在り方が自分でもよく分からず、迷っている人や特に決めたくない人

⑦ セクシュアルマイノリティ

通称セクマイ。性別少数派の人を指す

⑧ レインボーフラッグ

LGBTの社会運動を象徴する旗

⑨ 性自認

自分の性をどのように認識しているかという自己意識の概念

⑩ 性同一性障害

心の性と身体の性が一致しない場合の医学的診断名

⑪ カミングアウト

他者に打ち明けること

⑫ シスジェンダー

心と身体の性が一致する人

インタビューを終えて



ジェンダーとは何でしょうか? きっと色々な見方があり、人それぞれ答えは様々だと思います。それでは、他人事でしょうか? いいえ、私のことです。私たちが知って考えなければいけないことだと思います。確かに身近でないかもしれませんが、ですが、より多くの人が自信を持って、自分らしく生きることができると世界を目指したいですね。

● 紙面作成メンバー ●

人間情報学部 / 北村 紗英、小林 咲良、江谷 音乃
福祉貢献学部 / 松浦 実咲
文学部 / 石塚 江莉奈
創造表現学部 / 鹿子 元希



ジェンダーって何だと考えますか?



「その場でどう役割を果たすか」と思います。身体の仕組みとかではありません。社会はチームで動くので、ジェンダーは性でなく、役割だと思います。特に、戦隊ものでは、役割がはっきりしています。



自覚はいつ頃ですか?



僕の場合は自覚というか、物心つかない頃からだったと思います。だから、小学校1年生くらいの頃には自覚していました。普通は第2成長期を迎えてからの自覚が多いみたいです。



周りに隠していましたか?



隠してはいませんでしたが、あえて言わなかったです。何となく周りも気づいて、「歩くカミングアウト」と呼ばれていました(笑)。ですが、家族には言っていなかったです。



日常生活で困ったことはありましたか?



学校生活で、「好きな人はいないの?」と聞かれたことです。ここでは、好きな人は異性が前提で聞かれているので、少し困りました。しかし、自分の性自認は男なので、社会生活を送る点で困ったことはありません。



嬉しかったことはありましたか?



周囲が自分のことを理解してくれて、普通に接してくれて、相手にしてくれたことが嬉しかったです。



これから世の中がどう変わって欲しいですか?



現在の社会は自分自身がLGBTQ+だと言えない人が多いですね。そういった人たちが生きやすい世の中になって欲しいと願っています



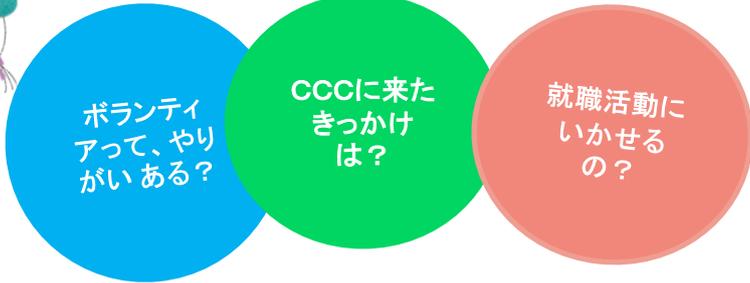
伝えたいメッセージをお願いします!



特にありません(笑)。ですが、あるとするなら、世の中の仕組みを考えて社会の在り方を正しく認識してほしいことです。そうすることで、周囲に言えないことを抱えている人も生きやすくなります。

先輩たちのボランティアのきっかけは？

4年生の卒業間近の先輩たちに、後輩のみなさんへの参考になればと。。。聞いてみました！
みなさんも、よかったらCCCに来てみてね〜(^^)/



★CCCへ来たきっかけ
入学式でCCCを知り、初めての授業でたまたま出会った友達と一緒に来ました。特に「こんなボランティアがしたい！」など具体的なことはわからなかったので、「CCCってどんなところですか？」という感じで行きました。

★ボランティアのやりがい
子どもたちから「楽しかった！また来たい！」と言ってもらった時。メンバーの子達と一緒にやりとげた時。活動で他人事だったことを自分事として捉え直すことで、ひとりの人として助け合う大切さを学びました。なごやであそび隊として私一人ができたことは小さかったかもしれませんが、どのような状況でも被災されず、またこの先もずっと変わらず心の中に残っています。

交流文化学部4年伊藤菜々子

Q. CCCへ来たきっかけは？

A. 中学・高校と部活動をやってきたので、運動じゆいことをやりたいと思って、でも、学校から話を聞かされた。

Q. 入った団体は？

A. 新入生ガイダンスでCCCのことを聞いて、どんな風か知りたかった...

Q. 入った理由は何？

A. 単独ボランティアとか選んだ理由は？

Q. サークルを探して、自然の中で活動できた。自然の中で活動できた。自然の中で活動できた。自然の中で活動できた。

A. 自然の中で活動できた。自然の中で活動できた。自然の中で活動できた。自然の中で活動できた。

Q. 就職活動でボランティアで活動するポイントは何？

A. 自分の行動を振り返り、考え、言葉に出すこと。なぜ、やりたいか、いかにやるか、整理して、活き活きにする。

Q. 活動を通してやりがいは？

A. イベントを通して自分たちで作って、できた時の達成感！

A. 訪問先の利用者さんの笑顔。子ども達からの「ありがとう」(声に出さず)。

A. 活動内容よりも、その活動内で起きた状況や課題に対し、自分からどう思い、どう動くか、その理由を質問されます。

編集後記①
ボランティアのやりがいや想いはそれぞれ違いますが、CCCで活動することで、多くの学びを得ることができます。あなたもきっと、自分に合うボランティアが見つかるはずですよ！ぜひ、1度CCCに足を運んでみてください！

交流文化学部2年 山本羽奈

編集後記②
コラボ通信を手にとってくださり、ありがとうございます♪CCCを卒業された先輩方の言葉を見ても分かるように、CCCで得られるものは本当に人それぞれです。私にとってCCCは、人生をより楽しく・豊かにしてくれる存在です。あなたにとっても、CCCがそんな存在になったら嬉しいなと思います。

交流文化学部2年 数馬鈴菜



長久手キャンパス 480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9 (0561) 62-4111 (代)
Eメール asccc@asu.aasa.ac.jp HP https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/index.html
利用時間 平日9:00~18:30 (授業日以外9:00~17:00)

星が丘キャンパス 464-8671 名古屋市千種区桜丘23 (052) 781-1151 (代)